

令和 5 年 6 月 15 日現在

機関番号：27501

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2022

課題番号：18K17500

研究課題名（和文）糖尿病をもつ成人期男性のセクシュアリティの看護ケアの質評価基準の検証

研究課題名（英文）Verification of indicator for quality of nursing care of sexuality for men with diabetes.

研究代表者

森 加苗愛（Mori, kanae）

大分県立看護科学大学・看護学部・准教授

研究者番号：20783286

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000 円

研究成果の概要（和文）：『構造』18項目、『過程』25項目、『成果』22項目の計65項目で構成される「糖尿病をもつ成人期男性のセクシュアリティの看護ケアの質評価基準」の検証を行い、本基準の洗練を図ることを目的に介入研究を行った。結果、『構造』に「S19：地域の専門病院との連携システムの整備」1項目、『過程』に「P26：地域の専門病院との連携・調整に関する看護実践」1項目を加えた。

以上より「糖尿病をもつ成人期男性のセクシュアリティの看護ケアの質評価基準」は『構造』19項目、『過程』26項目、『成果』22項目の計67項目の構成となった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

基本的人権であるセクシュアリティは、看護を実践する上で不可欠な視点である。糖尿病は、その病態や療養生活から男性のセクシュアリティに様々な影響を及ぼすが、医療システムや人材育成など多くの課題があり、その看護は充分ではない現状がある。

「糖尿病をもつ成人期男性のセクシュアリティの看護ケアの質評価基準」に基づく看護実践は、糖尿病をもつ男性のセクシュアリティの問題に対する医療職者の看護ケアへの意識を高め、糖尿病をもつ男性の豊かな生への支援の道標となり、看護ケアの質の向上の一助となる。

研究成果の概要（英文）： An intervention study was conducted to verify the "Indicator for Quality of Nursing Care of Sexuality for Men with Diabetes," which consists of 65 items: 18 items for "Structure," 25 items for "Process," and 22 items for "Outcome," and to refine these indicator. As a result, one item "S19: Development of a system of collaboration with local specialty hospitals" was added to "Structure" and one item "P26: Nursing practice regarding collaboration and coordination with local specialty hospitals" was added to "Process".

Thus, the "Indicator for Quality of Nursing Care of Sexuality for Men with Diabetes" consisted of 19 items for "Structure," 26 items for "Process," and 22 items for "Outcome," for a total of 67 items.

研究分野：糖尿病看護

キーワード：セクシュアリティ 糖尿病 男性 看護ケアの質 評価基準

様 式 C-19、F-19-1、Z-19（共通）

1. 研究開始当初の背景

1999年、世界性科学会（World Association of Sexology：WAS）は「性の権利宣言」を公表し、セクシャル・ライツは「あらゆる人間が有する、生まれながらの自由、尊厳、平等に基づく普遍的な人権である。」ことが宣言された。セクシュアリティは人間の基本的な人権であり、人間の性は人間を全人的・包括的にみるセクシュアリティの概念でとらえるべきであるといえる（L.A.Kirkendall, 1972）。

糖尿病は、その病態や療養生活から男性のセクシュアリティに様々な影響を及ぼす。しかし医療システムや人材育成の課題（植木，2002；松岡，2006）、性に関する日本の文化的背景等から男性のセクシュアリティの問題は表面化し難く、その看護ケアは十分とはいえない。これらの現状から、患者は勃起障害（Erectile Dysfunction；ED 以下ED）等の症状に1人で悩み、偽造医薬品の内服から健康被害に至る症例が報告されている（吉田ら2008, Kao SL, et al 2009）。

研究者はこれらの課題に対し『糖尿病をもつ成人期男性のセクシュアリティの看護ケアの質評価基準』を開発した（森2021）。本基準は、医療の質を評価するDonabedian(1966)モデルに基づき『構造』『過程』『成果』の3側面から評価できるものである。『構造』は医療環境の整備18項目、『過程』は看護実践内容の25項目、『成果』は「患者からの成果」「家族（パートナー）からの成果」「看護師からの成果」「チームとしての成果」「医療機関職員からの成果」22項目の計65項目で構成される。

2. 研究の目的

本研究の目的は、医療機関に応じた看護ケアの質評価基準の臨床実践適用性と有用性の検証により、本基準の洗練を図ることである。

3. 研究の方法

本研究は、臨床における介入研究である。当初4施設での介入を計画していたが、COVID-19の影響により、A施設1施設が対象となり研究を実施した。研究方法は以下である。

【第1段階】対象施設の看護師による看護ケアの質評価基準の臨床実践適用上の課題の明確化およびケア方針と評価票の立案

- (1) 調査期間：2020年2月
- (2) 対象者：A施設において糖尿病看護の中心的役割を担う熟練看護師
- (3) データ収集方法：半構造化面接
- (4) 内容：対象者の属性、看護ケアの質評価基準の臨床実践適用上の課題の明確化およびケア方針と評価票の立案
- (5) 分析方法：質的帰納的分析

【第2段階】看護ケアの質評価基準の臨床実践適用上のケア方針についての糖尿病ケアチームに対する説明と評価

- (1) 調査期間：2020年3月26日～2020年10月26日
- (2) 対象者：A施設糖尿病ケアチームメンバー
- (3) データ収集方法：フォーカスグループインタビュー
- (4) 内容：対象者の属性、看護ケアの質評価基準のチーム医療における臨床実践適用上の困難の明確化およびケア方針と評価票の立案
- (5) 分析方法：質的帰納的分析

【第3段階】看護ケアの質評価基準を臨床において実践し、得られたデータから看護ケアの質評価基準の洗練を行う

<第3段階-1>集団指導における看護ケアの質評価基準の検証

- (1) 調査期間：2021年8月5日～2022年2月24日
- (2) 対象者：A施設の糖尿病教室に参加する男性
- (3) データ収集方法：糖尿病教室終了後の無記名式質問紙
- (4) 内容：対象者の属性、「糖尿病と性の話を聞いた経験」、「教室の感想」、「要望」等
- (5) 分析方法：単純集計、自由記述は質的帰納的分析、看護ケアの質評価基準の成果22項目のうち「患者からの成果」を評価する。

<第3段階-2>患者インタビューからの検証

- (1) 調査期間：2021年10月28日～2022年1月31日
- (2) 対象者：A施設の糖尿病教室により、自らセクシュアリティに関する相談を医療職者に行った男性で、本研究に同意を得られた方
- (3) データ収集方法：半構造化インタビュー
- (4) 内容：対象者の属性、「相談を行った理由」、「ケアの要望」等
- (5) 分析方法：質的帰納的分析

<第3段階-3>糖尿病ケアチームからの検証

- (1) 調査期間：2021年10月19日～2022年1月7日

- (2) 対象者：A 施設糖尿病ケアチームメンバー
- (3) データ収集方法：半構造化面接
- (4) 内容：看護ケアの質評価基準の実践後の評価、チーム医療における臨床実践適用上の課題
- (5) 分析方法：質的帰納的分析

<第3段階-4>看護ケアの質評価基準の洗練

- (1) 期間：2022 年 2 月～2023 年 3 月
- (2) 分析対象：第3段階 1～3 で得られたデータ
- (3) 分析方法：得られたデータから看護ケアの質評価基準を評価し洗練を行う

4. 研究成果

(1) 第1段階：対象施設の看護師による看護ケアの質評価基準の臨床実践適用上の困難の明確化およびケア方針と評価票の立案

①対象者の概要 慢性疾患看護専門看護師 1 名と糖尿病看護認定看護師 1 名 計 2 名

②看護ケアの質評価基準の臨床実践適用上の課題の明確化およびケア方針と評価票の立案

分析の結果である大項目を【 】、中項目を< >で記載する。

『構造』18 項目では、セクシュアリティのケアシステムが整備されていない現状があげられた。【情報を把握できる記録物がない】、【プライバシーが確保された相談窓口および環境がない】これは外来・病棟共通の課題であった。【患者の意思決定を支援できる環境がない】これは< 集団教育での糖尿病と男性の性の情報提供を行っていない >等があげられた。【家族（パートナー）への糖尿病教室への参加を案内していない】、【看護師への性に関する教育は行っていない】があげられた。『過程』25 項目では、【糖尿病教室での性に関する情報提供の内容】として< 医師が合併症の一部として軽く触れるのみ >等、集団指導での情報提供のあり方、【性の問題への困難感からくる受け身の姿勢】、【家族（パートナー）を含めたケアの意識不足】、【プライバシーに関わることへの迷いや困難感】があげられた。

A 施設の看護ケアの質評価基準の臨床実践適用上の課題を明確にし、介入研究における看護ケアの質評価基準の活用方針は、いずれも課題解決に向けた対応は可能であり、計 65 項目を適用して行う計画とした^{注)}。

注) 第1段階を実施した 2020 年 2 月以降、COVID-19 の影響により集団指導や院内掲示物、家族の院内の出入り、多領域との連携、看護師の院内教育等制限された。その為、本研究では、集団指導（糖尿病教室）および相談窓口の整備とケア、チーム医療に関する『構造』6 項目（「患者が情報把握・意思決定できる環境の整備」4 項目、「チーム医療・他領域連携システムの整備」2 項目）、『過程』9 項目（「患者が情報把握でき、今後の対処について意思決定できる集団指導の工夫・支援」4 項目、「患者のプライバシー・尊厳に配慮した支援」3 項目、「チーム医療における看護実践」2 項目）『成果』18 項目（「患者からの成果」11 項目、「看護師からの成果」6 項目、「チームとしての成果」1 項目）に焦点を当て実践した。

(2) 第2段階：看護ケアの質評価基準の臨床実践適用上のケア方針についての糖尿病ケアチームに対する説明と評価

①看護ケアチームにおける看護ケアの質評価基準の臨床実践適用上の課題

分析の結果である大項目を【 】、中項目を< >で記載する。

【性の相談は医療職者からは問いかけしていない】、【患者が性の質問ができる環境がない】【集団指導での内容】として< 合併症の一部として概要に触れるのみ >、【性の相談は受けたことがなく、問題ないと考えている】【記録はなくチーム内で問題が共有できていない】があげられ、チームとしての取り組みはなされていない。

②看護ケアの質評価基準の評価

集団指導（糖尿病教室）および相談窓口の整備とケア、チーム医療に関する『構造』6 項目（「患者が情報把握・意思決定できる環境の整備」4 項目、「チーム医療・他領域連携システムの整備」2 項目）、『過程』9 項目（「患者が情報把握でき、今後の対処について意思決定できる集団指導の工夫・支援」4 項目、「患者のプライバシー・尊厳に配慮した支援」3 項目、「チーム医療における看護実践」2 項目）は実施可能である。集団指導での看護師の男性の看護の実践、チーム内での情報と目標の共有、男性のセクシュアリティのケアに関連のある泌尿器科などの他科連携の必要性があげられた。

(3) 第3段階-1 看護ケアの質評価基準を臨床において実践し、得られたデータから看護ケアの評価基準の洗練を行う：集団指導における看護ケアの質評価基準の検証

①対象者の概要 参加者は 64 名、平均年齢は 63.8 歳であった（表 1）。教室は 26 回開催し、参加者の内 55 名（回収率 85.9%）から質問紙の回答を得た。

②実施した集団指導の概要

実践者は、慢性疾患看護専門看護師 1 名と糖尿病看護認定看護師 1 名が週 1 回実施した。看護師は、事前準備として糖尿病と ED に関する知識習得や倫理的配慮の検討、糖尿病チームは、目標の共有・ED 治療薬の処方希望時や相談時の対応方法等の検討を行った。集団指導では、看護師が男性の豊かな生を支援したい旨を伝え、糖尿病と男性の性に関する病態、安全な薬物療法、相談について資料を作成して行った。

③看護ケアに対する感想

28 名の自由記載の回答から 32 のコードを得た。結果【糖尿病と性の問題について新たな正しい知識を得て生じた性への思いや気づき】【糖尿病と性の講義を聴き自己の身体感覚を振り返る】【得た知識を自己管理へ活用しようという思い】【今後の治療や相談に対し生じた思いや疑問】【糖尿病が性機能含め、全身性疾患であることへの実感】【自己の性への価値観の認識】【糖尿病と性の看護の取り組みへの感謝】の 7 大項目が導出された(表 2)。

④看護ケアの質評価基準の評価と基準の洗練について

『構造』の「患者が情報把握・意思決定できる環境の整備」4 項目において、患者が知識を得て性への思いや気づきがあり、相談できる環境整備ができていたといえる。『過程』の「患者が情報把握でき、今後の対処について意思決定できる集団指導の工夫・支援」4 項目では、患者が今後の治療や相談に対し生じた思いや疑問を表出できていた。「患者のプライバシー・尊厳に配慮した支援」3 項目では、プライバシーが確保できる相談窓口の整備と案内を実践し、「チーム医療における看護実践」2 項目では糖尿病ケアチーム内での目標の共有や他科との連携の重要性の認識につながったと示唆された。『成果』における患者からの成果 11 項目はほぼ得られていた。したがって新たな項目の評価修正等はなしとした。

項目名	内訳	人	%
年齢層	40歳未満	10	15.6
	40歳以上50歳未満	7	10.9
	50歳以上60歳未満	11	17.2
	60歳以上70歳未満	10	15.6
	70歳以上	26	40.6
平均年齢	63.8 歳		
糖尿病の病型	1型	2	3.1
	2型	59	92.2
	その他	3	4.7
HbA1c値 平均値	9.8		
病歴	1年未満	14	21.9
	1年以上5年未満	10	15.6
	5年～10年未満	9	14.1
	10年～15年未満	8	12.5
	15年以上	23	35.9
治療 (複数回答)	GLP-1受容体作動薬	9	
	インスリン療法	19	
	経口薬	51	
	薬物療法なし	1	

大項目	中項目	コード数
糖尿病と性の問題について新たな正しい知識を得て生じた思いや気づき	新たな知識を得たことから糖尿病と性の関連を実感する	4
	糖尿病と性に関し新たな知識を得たことに肯定的思いを抱く	4
	間違った知識習得への恐れの思いと、正しい知識提供への感謝	1
	男性の性の問題は夫婦の問題で重要と思った	1
	糖尿病と性の影響に関する自己の認識への気づき	1
糖尿病と性の講義を聴き自己の身体感覚を振り返る	重要性を認識して自己の身体を振り返った	1
	自己の身体を振り返り未だ実感はないことを認識する	3
	自己の身体を振り返り思い当たる点を認識する	2
得た知識を自己管理へ活用しようという思い	得た知識を自己管理へ活用しようという思い	1
	血糖コントロールの重要性を理解したことで自己管理を頑張りたい思いを抱く	1
今後の治療や相談に対し生じた思いや疑問	薬物療法の安全性についての思い	3
	良い話を聞いたが、今後治療の場を継続できない残念な思い	1
	今後の相談行動への疑問や思い	3
糖尿病が性機能含め、全身性疾患であることへの実感	糖尿病が性機能の問題を含め全身に影響することを改めて感じる	2
自己の性への価値観の認識	性への価値観を認識する	3
糖尿病と性の看護の取り組みへの感謝	糖尿病と性の看護の取り組みへの感謝	1

(4) 第3段階-2 看護ケアの質評価基準を臨床において実践し、得られたデータから看護ケアの評価基準の洗練を行う：患者インタビューからの検証

①対象の概要 自らセクシュアリティに関する相談を医療職者に行った男性 6 名

②看護ケアの質評価基準の実践後の評価について

「相談を行った理由」では【自己の経験を病院と他の患者に役立てたい】【自己の経験を親身になって聴いて欲しかった】【治療法への希望】【身体の変化の気づきの共有】【糖尿病の治療への意欲の表明】の 5 項目があがった。

「ケアの要望」は【看護師の性の問題に関わる姿勢の指導】【看護師からの受診に関する情報提供】【相談相手の選択】【性に関する情報発信方法の工夫】の 4 項目があがった。

③看護ケアの質評価基準の評価と洗練

『構造』の「患者が情報把握・意思決定できる環境の整備」4 項目において、患者が知識を得て性への思いや気づきがあり、相談に繋がっていた。『過程』の「患者が情報把握でき、今後の対処について意思決定できる集団指導の工夫・支援」4 項目では、患者が今後の治療や相談に対し生じた思いや疑問を表出できていた。また、自己の経験を役立てたいという思いへも繋がっていた。「患者のプライバシー・尊厳に配慮した支援」3 項目では、プライバシーが確保できる相談窓口の整備と案内ができた。また、情報発信の工夫は、今回パンフレットの設置や掲示物に制限があったが今後の評価としたい。『成果』における患者からの成果 11 項目はほぼ得られていた。要望はほぼ看護ケアの質評価基準を網羅しており、新たな項目の評価修正等はなしとした。

(5) 第3段階-3 看護ケアの質評価基準を臨床において実践し、得られたデータから看護ケアの評価基準の洗練を行う：糖尿病ケアチームからの検証

①**対象者の概要** 対象者は医師3名、看護師2名、栄養士1名、薬剤師1、計7名である。

②**看護ケアの質評価基準の実践後の評価、チーム医療における臨床実践適用上の課題**

分析の結果である大項目を【 】、中項目を< >で記載する。

看護ケアの質評価基準の実践後の評価として【看護師が糖尿病教室後に受けた相談から医師の受診へ繋げた】【家族(パートナー)と共にケアを行う意識の向上】【他科連携の重要性の認識の向上】【相談窓口の明確化と案内の定着】【看護師が集団指導を行う事によるチーム内での情報と目標の共有の強化】【チームカンファレンスでのセクシュアリティのケアに関するテーマの増加・意識向上】【医師から看護外来への紹介】7項目があげられた。

臨床実践適用上の課題として【集団教育以外での情報提供不十分】があり、<集団指導以外での情報提供の工夫が必要>であることが示唆された。【医師の時間的制約】は、<医師が集団指導でも細やかな情報提供を行う>ことや<相談窓口での活動>が期待されるが、現状では時間的に困難であることがあげられた。【チーム内での情報や目標の共有方法】は、チーム内での情報と目標の共有の強化が見られるものの、今後看護ケアの質評価基準が定着しくチームカンファレンスでの運営に組み込まれるまでの方法の工夫が必要であることがあげられた。【地域の専門病院との連携システム構築】は院内のみにとどまらず患者の状態に応じた地域の専門の病院との連携が必要>であるとの4項目があげられた。

③**看護ケアの質評価基準の評価と洗練**

『構造』の「患者が情報把握・意思決定できる環境の整備」4項目において、糖尿病教室を実践した看護師へ患者から相談があり、医師に繋げている。患者が知識を得て相談できる環境整備ができていた。また相談窓口の明確化と案内は糖尿病教室で実施された。「チーム医療・他領域連携システムの整備」2項目では泌尿器科への紹介が行われ連携されていた。

『過程』の「患者が情報把握でき、今後の対処について意思決定できる集団指導の工夫・支援」4項目では、患者が看護師に相談を行った事例があり、患者の意思決定支援につながったといえる。「患者のプライバシー・尊厳に配慮した支援」3項目では、プライバシーが確保できる相談窓口の整備と案内の上でのケアの実践、「チーム医療における看護実践」2項目では、他科連携の重要性の認識の向上、医師と看護師間の連携強化、チーム内でのセクシュアリティのケアに関する意識向上が見られていた。『成果』における「看護師からの成果」6項目、「チームとしての成果」1項目はほぼ得られていた。

④**看護ケアの質評価基準の洗練について**

課題において【集団教育以外での情報提供不十分】については、今回パンフレットの設置や掲示物について制限があった背景があり、引き続き評価する。【医師の時間的制約】は、今後<医師による集団指導での情報提供>や<相談窓口での活動>が期待されるが、現状ではまずは看護師の活動からの連携体制の強化とし、項目の追加変更はなしとする。また、【チーム内での情報や目標の共有方法】もチーム内での男性のセクシュアリティのケアに関する意識の向上が見られており、引き続き評価とする。【地域の専門病院との連携システム構築】は、地域の専門の病院との連携の必要性を問うものであり、従来の基準にはなかった。そのため、『構造』に「S19：地域の専門病院との連携システムの整備」および『過程』に「P26：地域の専門病院との連携・調整に関する看護実践」を加えた。

(6) 第3段階-4：看護ケアの質評価基準の洗練

第3段階までの介入研究の評価により、看護ケアの質評価基準は以下のようにした。

『構造』に「S19：地域の専門病院との連携システムの整備」1項目を加える。

『過程』に「P26：地域の専門病院との連携・調整に関する看護実践」を加える。

以上より、糖尿病をもつ成人期男性のセクシュアリティの看護ケアの質評価基準は『構造』19項目、『過程』26項目、『成果』22項目の計67項目での構成となった。

引用・参考文献

- Kao SL, Chan CL, Tan B et al(2009) : An unusual outbreak of hypoglycemia, NEngl J Med, 360, 734-736.
- L. A. Kirkendall 著 波多野義郎訳(1972) : 「現代社会における性の役割」、「性教育研究」・季刊創刊号, 財団法人日本性教育協会編集, 小学館, 東京.
- 松岡孝(2006) : 糖尿病患者における勃起不全, プラクティス, 23 (1) , 16-17.
- 森加苗愛(2021) : 糖尿病をもつ成人期男性のセクシュアリティの看護ケアの質評価基準の開発, 日本性科学会雑誌, 39, 59-75.
- 植木彬夫(2002) : 神経障害による ED, 診断・治療の現状と限界, Diabetes Frontier , 13, 778-782.
- 吉田直彦, 古川慎哉, 上田晃久ほか(2008) : 糖尿病患者における勃起障害(ED : erectile dysfunction)の実態調査, 愛媛医学, 27, 231-5.

5．主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1．発表者名 森加苗愛
2．発表標題 糖尿病をもつ成人期男性のセクシュアリティの看護ケアの質評価基準の評価 ～糖尿病教室における看護ケアの取り組みから～
3．学会等名 第27回日本糖尿病教育・看護学会学術集会
4．発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------